



7月7日・『近畿地方建設局事故調査委員会』開催

「近畿地方建設局 事故調査委員会」が、本局内委員、事務所委員等 25 名の出席により、7月7日に開催されました。委員会で討議した内容は下記のとおりです。

1. 平成 9 年度近畿地建の請負工事関係事故の発生状況
2. 事故調査委員会の役割と業務範囲や事故発生時の本局窓口等
3. 事故調査委員会の平成 1 0 年度の活動方針及び工事安全対策の取り組み等

委員会では、上記の議案について活発な議論がなされ、今後の事故調査委員会の活動方向や事故要因分析等について貴重なご意見・提案をいただきました。

これらの意見・提案を踏まえ、今後は以下の方針を進める予定です。

- (1) 発生事故の整理・分類及び要因分析等においては、近年の蓄積された事故データにより検討を行う。検討においては各事務所等の工事安全対策においても活用を図れるような方法を主体にして実施する。なお、取りまとめについては今年度内を目標とする。
- (2) 事故調査委員会の役割と業務範囲及び、発生時の本局窓口等については、事務局で整理し、幹事に計ったうえで年度内に委員会に報告する。

事故調査委員会で確認された内容については、後日各事務所に報告をします。



建設工事の事故統計分析（第一次報告）まとまる！！

〈全国的な事故統計資料のデータベースにより分析〉

建設省では、平成 4 年度より「**事故データベース構築検討会**」を設置し、平成 6 年度に初めて「**建設工事事故データベースシステム**」を開発しました。このシステムは、発生した工事事故の発生件数、被災者数等のデータ蓄積を行うだけでなく、**事故のメカニズムに係わる事故要因等をデータベース化**し、これらを**適切に活用することによって設計・積算・施工管理等における安全対策の充実に役立てる事を目的**としています。

開発されたシステムは、平成 7 年度に試行され、平成 8 年度に運用が開始されましたが、事故データがある程度蓄積されたことから、統計分析を行い平成 1 0 年 3 月に第一次報告として取りまとめが行われました。

第一次報告内容の一端を紹介すると下記ようになります。

分析は、直轄・都道府県・政令指定都市・公団・事業団等の工事において、平成6年1月から平成8年9月に報告のあった939件の事故について行っています。

収集された事故全件数の内、工事関係者が負傷する労働災害事故（もらい事故を含む）が全体のほぼ9割を占め、その死傷者数は、全体で1,084人（内死亡者259人）となっています。

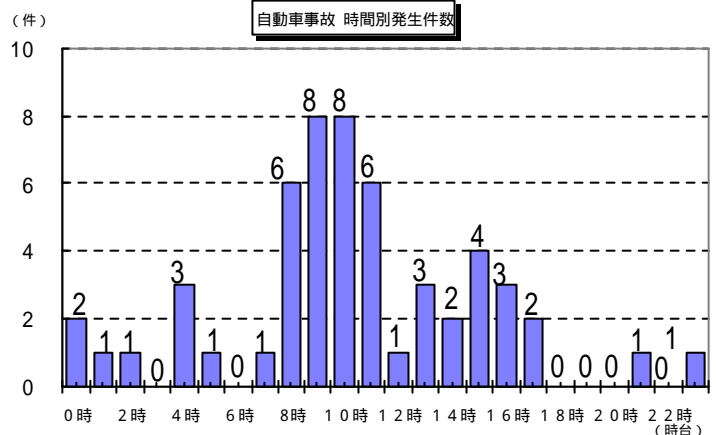
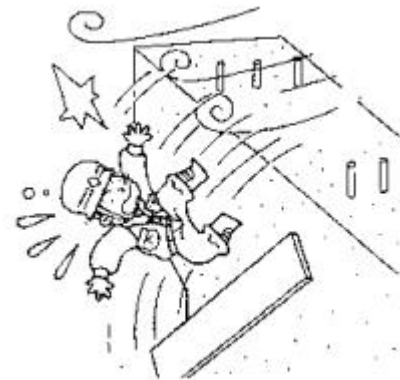
発生事故の形態は、墜落事故312件、重機事故（クレーン・建設機械等）189件、飛来落下事故98件、倒壊・崩落・落盤事故87件、自動車事故54件となり、この上位5つの発生形態で全体の80%となっています。

分析結果の一部を紹介すると次のとおりです。

イ．墜落事故は、朝の作業開始時間帯に多く発生し、「危険だとは思わなかった」等の人的要因、「安全带取付け設備の欠陥」、「安全設備の未設置」等の物的要因による原因が多くを占めています。

ロ．重機事故における発生時間分布を見ると、午後終業時間に向かい増加する傾向があり、オペレーターが相手の動作確認を怠った事故、重機に指揮者・誘導員を配置していなかった事故等が特徴的となっています。

ハ．自動車事故は午前中に多く発生しています。



今回とりまとめた全国の分析結果については、

近畿地建における整理・分類等における検討にも反映させる予定であり、全国的な発生の傾向と対比も行いながら、再発防止対策の検討を行う予定です。

なお、第一次報告の要約版については、LaMailの公開掲示板に掲載する予定です。

6月の事故情報

発生日	発生場所	事故の状況
6月25日	京都府	トンネル内の無散水融雪舗装工事において、融雪配管の据付が完了し、バックホウで埋戻し作業中、別途作業の作業員が一輪車を押して坑外に出るためバックホウの後方を通過しようとしたところ、バックホウ運転手が後方の作業員に気付かず後進したため作業員に接触し、作業員が負傷した。 〔左足関節内果骨折・左腓骨骨折・骨盤骨折 全治3ヶ月〕
6月27日	奈良県	舗装修繕工事において、片側2車線の内、追越車線を交通規制してアスファルト舗設作業中、規制内の後方で待機していた合材運搬用ダンプトラックが、交通整理員の合図が出ていないにもかかわらず、前方のアスファルトフィニッシャーの前に移動しようとしたため、交通整理員が停止合図を送ったが、ダンプトラックの右前部が走行車線にはみ出して、走行中の一般車輦（ライトバン）に接触した。 〔物損〕